

# どうなる安全

ヘルスケアネットワーク  
「運輸ヘルスケアナビシステム<sup>®</sup>」

## 健康起因事故ゼロへ挑戦 活用浸透し改善事例も

浸透しつつある。作本貞子副理事長は「健診データの蓄積を進めれば、将来的に事故の予兆を察知し健康起因事故をなくすことにつながる」とさらなる利用の広がりに向けた啓発を強化する方針だ。

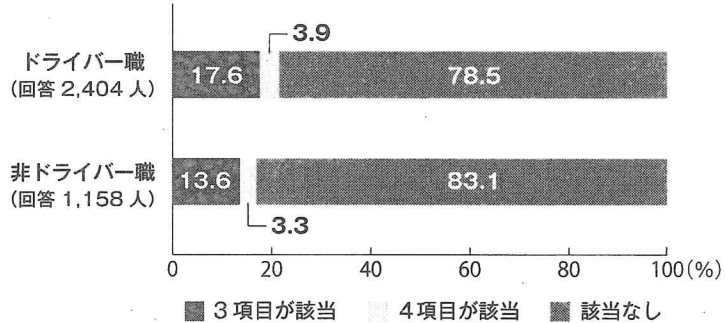
ドライバーは  
リスクが高い

ドライバーの定期健康診断後のデータ分析をサポートするヘルスケアネットワーク(OCCHI、武田裕理事長)の「運輸ヘルスケアナビシステム<sup>®</sup>」。

同システムは2017年度に試験運用を開始し、翌18年度から全日本トラック協会の委託事業として本格的に運用されている。健診結果の表記は受診した病院ごとに異なるため、同システムでは各社から収集した結果をデータベース化し、健康状態の見える化を図っている。健康に重点を置いた経営促進や個人単位の健康意識の高まりを背景に、21年度は約4500人のデータを扱った。

20年度の集計結果によると、ドライバーの健康管理の不足が目立つ。肥満、高血圧、脂質異常、高血糖のうち3項目以上で基準値を超える「ハイリスク者」の割合は、ドライバー職では21・5%と4〜5人に1人に達した。一方、非ドライバー職は16・9%にとどまった(グラフ)。

「ハイリスク者」の割合



また睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査では、精密

「ハイリスク者数は高血圧、脂質異常の順に多く、特に大きな変化は見られない」と作本副理事長。

検査が必要な割合は19・7%を占めている。ハイリスク者やSAS陽性者は脳・心臓疾患の発症リスクが高く、健康起因事故につながりやすい。「ドライバー特有の不規則な労働形態に加え、人材不足に伴う高齢化、業務負担の増加が要因と考えられる」と作本副理事長。

適切な受診で病気が知らずに一方で光明もある。ハイリスク者を抱える企業の中で、適切な受診を勧めると劇的に改善する事例があった。

OCCHIでは、17年度から4万年の追跡調査も行っている。健康起因事故との因果関係をさらに追究できる可能性を秘めている」と話す。運輸ヘルスケアナビシステムの利用促進に向け、地方トラック協会とオンラインを併用した講演を行い継続的な働き掛けを強めたい考えだ。健康起因事故ゼロの実現は遠くない未来に近づいたと言えそうだ。

また、この4年間で得られた健診データを基に、各症状との相関性の研究が進む。直近ではオムロンヘルスケアと共同で、SAS症状があるドライバーは、症状がないドライバーと比べ起床時の血圧が高いことを突き止めた。

(遠藤 仁志)